

総務省インターネット政策懇談会第9回

NGNにおけるIPv6提供方式に関する検討結果

2009年2月16日

東日本電信電話株式会社
井上 福造

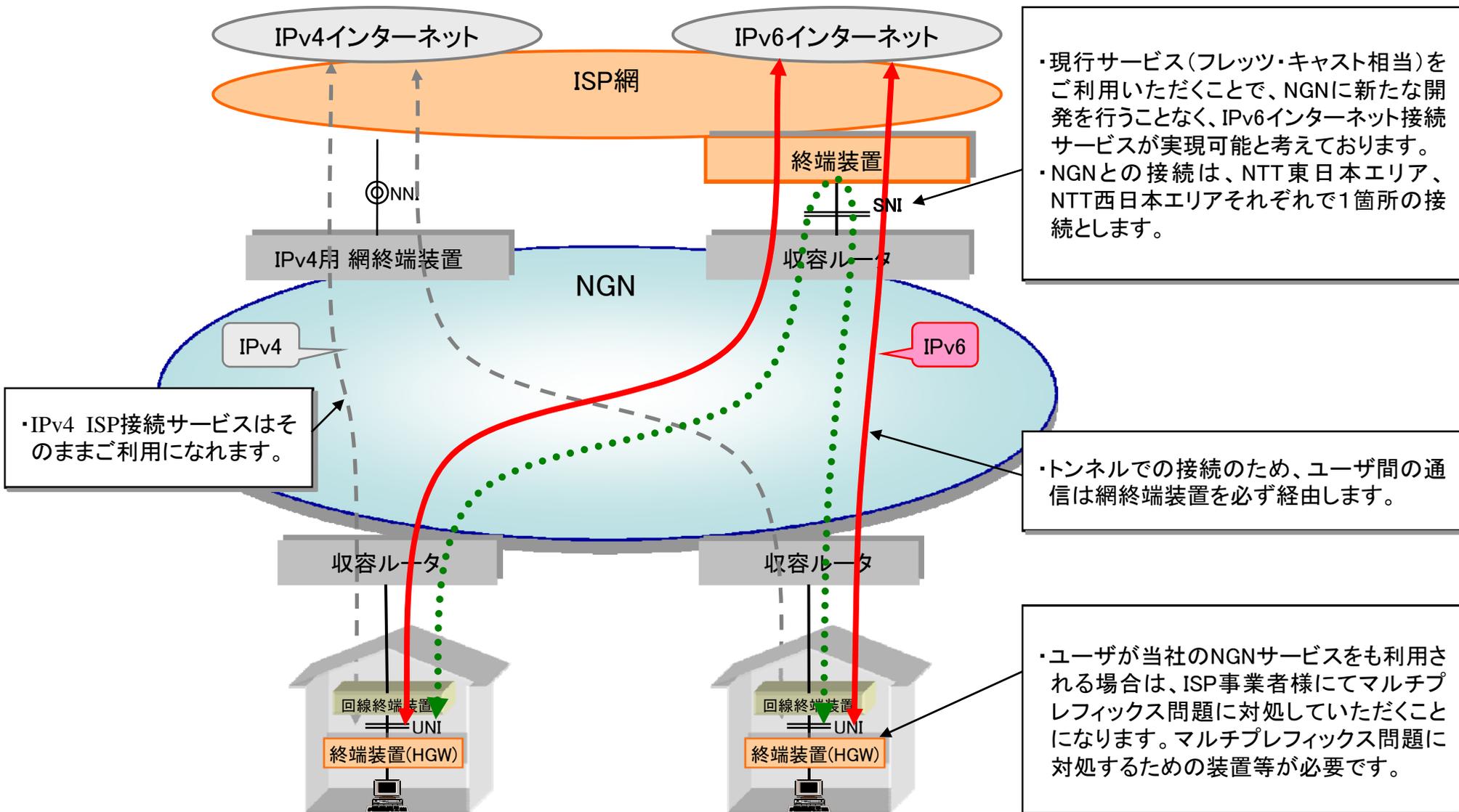
各案の検討経緯

■ JAIPA殿から昨年4月に3つの方式案(案1～案3)を提案いただき、当社はJAIPA殿と協力して各案に係る技術的な課題について、整理を行いました。(昨年8月、総務省インターネット政策懇談会「IPv6移行とISP等の事業展開に関する作業部会」に報告。次ページ参照。)また、昨年9月以降は、JAIPA殿から案2の仕様等に関する具体的な要望をいただき、JAIPA殿と協力して実現方式を検討してまいりました。

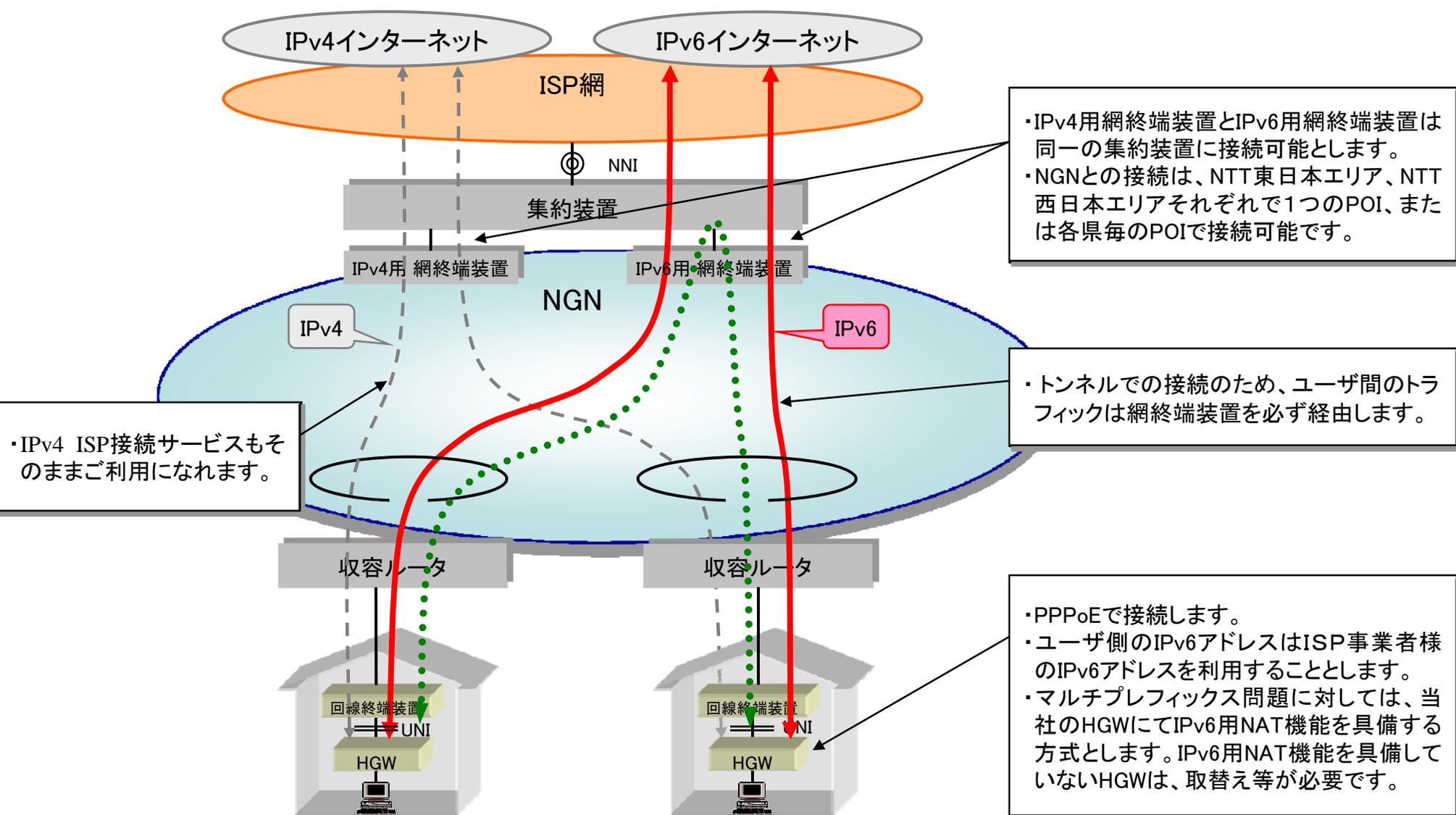
これに並行して、一部のISP事業者様から、案3をベースにISP事業者のIPv6アドレスを利用する新しい提案(案4)をいただき、当該事業者様と協力して実現方式を検討してまいりました。

| | トンネル方式 | | ネイティブ方式 | |
|--------|--|---|--|---|
| | 案1 | 案2 | 案3 | 案4 |
| 案のイメージ | | | | |
| 案の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ISP事業者がトンネル等を構築 | <ul style="list-style-type: none"> ・NTT東西でIPv6 ISP接続用トンネル機能を提供(現行のIPv4 ISP接続と同様) | <ul style="list-style-type: none"> ・NGNとインターネットをL3で接続 | <ul style="list-style-type: none"> ・NGNと代表ISP事業者網をL3で接続し、代表ISP事業者網経由にてIPv6インターネット接続を実現 |

[案1] 実現方式のイメージ



[案2] 実現方式のイメージ



- IPv4用網終端装置とIPv6用網終端装置は同一の集約装置に接続可能とします。
- NGNとの接続は、NTT東日本エリア、NTT西日本エリアそれぞれで1つのPOI、または各県毎のPOIで接続可能です。

- トンネルでの接続のため、ユーザ間のトラフィックは網終端装置を必ず経由します。

- IPv4 ISP接続サービスもそのままご利用になれます。

- PPPoEで接続します。
- ユーザ側のIPv6アドレスはISP事業者様のIPv6アドレスを利用することとします。
- マルチプレフィックス問題に対しては、当社のHGWにてIPv6用NAT機能を具備する方式とします。IPv6用NAT機能を具備していないHGWは、取替え等が必要です。

[案4] 実現方式のイメージ

